

今月のコラム

ポール・マッカートニーと夢と強い思い

中島商事株式会社
代表取締役社長 中島吉之氏



新年あけましておめでとうございます。

平素は会の運営、活動に対し格別のご理解、ご協力、ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

昨年は公私共に良い事もそうでない事も多々ありましたが、トピックをひとつあげるとするならば、念願のポール・マッカートニーのライブに行けた事です。

私は中学生の頃からビートルズの大ファンですが、実は色々怨念がありました。1980年1月、私が高校一年生だった頃、ビートルズの解散後はじめてポールが日本でライブをする事になりました。何とかチケットも取得することができ、非常に楽しみにしておりました。会場も中規模の愛知県体育館で予定されていました。ところが、ポールが来日する際にスーツケースに大麻を持ち込み、逮捕拘束されライブは儂くも中止となりました。また、同年12月にはジョン・レノンの暗殺もおこってしまいビートルズファンにとって大変辛い年となってしまいました。

その後1989年、1993年、2001年に日本公演が実現して、私も1993年の公演に行くことができましたが、会場が東京ドームということもあり、残念ながらポールは豆粒のようにしか見えませんでした。

そして2014年、東京の国立競技場公演ではなんと前から10列目の席を取ることができました。ようやく少年のときの怨念が晴らせると楽しみにしていましたが、なんと、この時はポールがウィルス性の炎症で公演はまたも中止となってしまいました。私が近くの席でポールに会おうとするたびに逃げられるといったような更なる怨念が重くなりました。

そして昨年、ナゴヤドームと両国国技館の2ヶ所で日本公演が再び開催されました。どちらのライブにもなんとか行くことができました。特に両国国技館ではポールを目の前で見ることができ、積年の思いがようやく伝わり本当に幸せなひと時でした。

色々ポールのことを書かせていただきましたが、一番感じるのは、思いは強ければ強いほど夢は叶うということです。私自身も仕事で海外事業を実現したいと2011年から強く考えていました。すると強い思いが情報を発信し、また情報を集め、たくさんの協力者があらわれ、6年かけて海外への道が開けつつあります。人の夢は、強く思えば思うほど叶うものだと思います。

ガーデンを考える会も同じように、会員一人ひとりが強い思いを持ち、業界発展の礎になることを願っております。

今年も元気に活動していきましょう!!





ガーデンを考える会 東京セミナー報告

「幸せの投資」にはコミュニティとガーデニング

暮らしの本質的な価値はどうやって作るのかということに着目して、花と緑の業界の新しい需要創造を考える。

12月5日、東京ユニマツトリック本社会議室において、甲斐徹郎先生によるセミナーを開催した。満席の会場では、甲斐先生のセミナーは初めての参加者が多く、自己紹介から始まった。

千葉大文学部の出身。暮らしの場を快適に豊かに、気持ちよく幸せにといった状況をどういうふうに生み出せるのかということ、マーケティングの立場でやってきた。マーケティングとなると建材メーカーやデベロッパー関連の仕事が多く、そちらに傾くとハード面が強くなり、結局環境という要素が少なくなっていくので、環境共生というコンセプトで、暮らしの中に緑を取り入れると、暮らしのレベルはどこまで上がるかをやってきたのが僕の仕事です。

住居は、世田谷の住宅地に、昔からの土地にあった樹齢250年のけやきを残し森のような中庭をつくり、クーラーをほとんど使わず自然の力で室内を快適にするような、自然環境の価値を存分に楽しむ暮らしを実践している。

そもそも、昔は家の周りに緑があり、自然が身近にある暮らしをしていたのに、なぜ今は個々の家は立派だけど、緑の少ない無機質な街並みに変わったのか？

昔は、大家族で食事、テレビを見ながら団らん。今は一人でカフェ、一人でスマホをするようになり他者との関係が省かれるライフスタイルが多くなっているが、コミュニティは必要ないのか？

便利さという技術の進化が個を孤立させ、外への関与を失わせる。結果としてコミュニティは失われ、街の豊かさはなくなるという時代に我々は生きている。その時代の中で、花と緑のガーデンは、どのような役割になっていくのかということ、皆が考えていくことがすごく大事なこと。コミュニティの重要性を掘り起こさないと、ガーデニングの必要性はわからない。

コミュニティを活かすことは、仲良くすることではなく、助け合いができる場を、ガーデニングという自然環境をつくることで、生み出すことができる、とした。

今回のセミナーでは、暮らしの本質的な価値は、どうやって作るの？ということに着目して、花と緑の業界に対して、新しい需要はどうやって作るのか？ということがセミナーの重要なテーマになった。

また、コミュニティとガーデニングをキーワードに、甲斐先生の投げかける疑問に対して参加者も一緒に考えるという、有意義な時間になった。

数々のまちづくりプロジェクトをしてきた結果、不動産もガーデニングを入れることで価値が上がる!と断言している。顧客の「幸せの投資」には、コミュニティとガーデニングは売り物として益々期待される分野であるようだ。



甲斐先生を囲み質疑応答



子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり 活動方針

12月5日東京セミナーの後半は、ガーデンを考える会の活動の主軸の一つである「花と緑のまちづくりプロジェクト」について、方向性と今後の活動スケジュールについて説明があった。

花と緑のまちづくりプロジェクト

❶ 花と緑のまちづくり推進の必要性

どのような美しいまちづくりにも、花と緑は不可欠であり、花と緑のまちづくりによって以下のような効果が期待できる。
安全・安心のまちづくり、地域のコミュニケーション円滑化、観光産業等地域振興、住みたくなる居住・働きたくなる職場環境形成（資産・不動産価値向上）、情操教育・自然環境教育・アクティブラーニングの一環等多様な効果。



一部の市町を除いて世界の各国に比較して日本の現状は寂しい限りである。

市民参加の「花と緑のまちづくり」を、行政による効果的な支援制度（ハード・ソフト）等の下、市民、企業、教育機関等が主体的に楽しくやりがいのある活動として推進できるような、持続的取り組み体制を構築して取り組むことが必須（植栽場所は、公共施設だけでなく民有地も活用できる）。



多様な花緑分野の関係者による情報提供・技術指導・提言等の交流を通じて、豊かで魅力的な都市・地域空間と文化の創造に貢献し快適な都市環境の実現・地域創成・活性化の推進に資する支援等が求められる。

上記を実現するため、
3組織の取り組み体制を整備

子どもたちと地域の未来を考える
花と緑のまちづくり全国首長会

「花緑サミット（仮称）」

市民・企業等による

「花と緑の美しいまちづくり
団体連絡協議会（仮称）」

関連企業等による
支援組織

NPO法人ガーデンを考える会



2 花と緑のまちづくり全国首長会と市民団体、関係組織の 役割分担基本方針(案)

1. 花と緑のまちづくり全国首長会「花緑サミット(仮称)」

：全国の「花と緑の都市・地域づくり」に積極的に取り組んでいる首長による連絡会議

花と緑の都市・地域づくりについて積極的にとりくんでいる市町の首長達が、よりよい花と緑のまちづくりを実現するため、率先して交流を図るとともに、NPO等の多様な関係者と一堂に会し、またインターネットを通じて遠隔地間の連携・情報交換、提言等を行うことで、豊かで魅力的な都市・地域空間と文化の創造に貢献し、快適な都市環境の実現・地域活性化に一翼を担う活動の輪を全国展開する。

2. 市民・企業等による

「花と緑の美しいまちづくり団体連絡協議会(仮称)」

：全国各地で花と緑のまちづくりをすすめる様々な団体・グループが、それぞれの団体ごとの活動を尊重しつつ、交流をすすめ共通で実施できる活動については全国的取り組みとして展開

JSURP(日本都市計画家協会)の、「美しいまちづくり研究会」として活動する(各団体に賛助会員としての参加要請)。研究会は、花と緑のまちづくり全国首長会との同時開催が望ましいが、全国都市緑化フェア等との連携もある。

3. 関連企業等による支援組織

「NPO法人ガーデンを考える会」

：全国首長会や市民主体の取り組みを、技術・情報・資金(協賛)等の側面から支援する組織となる「ガーデンを考える会」の再構築(今年度総会で実施 既会員を引き継ぐ・退会会社等にも再加入を呼びかけ)

当面100法人を結集する(ハード面〈園芸・造園関連：種苗会社・市場流通関係・各地域大型ナーセリー/園芸資材培養土 肥料 農業等資材/地域ごとの造園会社(設計も含む)〉ソフト面〈広報宣伝・メディア・企業CSR活動〉)。



これら3つの組織の有機的連携により活動を推進する(常設の事務局を支援新組織内に置き3組織の連絡調整・事務処理に対応)。

ガーデンを考える会 活動スケジュール(予定)

1月	花と緑のまちづくりに対応できる不足スキルの充足・検討
2月	新規会員募集の企画検討、市長や市民団体などの相談窓口になるような想定集作成
3月	ホームページの見直し、総会案内
4月	花と緑のまちづくりサミット参加者募集開始
5月	エクステリア&ガーデンフェア名古屋 出展
6月	総会、第1回花と緑のまちづくりサミット開催